

「家庭系ごみの減量化」

大学 (成果報告書作成者)	福島大学 経済経営学類 環境経済学研究室 小野 幸太郎、小野寺 翔汰、國分 逸生、小林 優月、鈴木 七海、丹野 葉里、 鶴見 彩夢、牧野 未侑、渡邊 祐太、ムハマド ユスフ (2年生) 沼田 大輔 (教授)
自治体	湯川村役場 住民課
その他関係者	湯川村廃棄物減量推進員 湯川村 廃棄物収集運搬委託業者 会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センター
(1) 調査研究の 課題・背景	湯川村が構成自治体となっている会津若松地方広域市町村圏は、令和8年3月に新焼却施設の稼働を予定しており、処理容量が現在よりも1日あたり29トン減少する予定である。しかし、湯川村は他の構成自治体よりも1人1日あたりごみ排出量が増加傾向にあり、1人1日あたり燃やせるごみ量も増加傾向にあるなど、目標値に遠く及ばない。そして、湯川村の現状をどう打開するかについての調査研究も必ずしもなされてきていなかった。本調査研究の目的は、湯川村で排出されているごみの現状の原因を探り、現状を打開する方策を提言することである。
(2) 令和5年度 調査研究活動内 容	・ 令和5年8月9日：湯川村役場で役場担当課から担当教員が湯川村のごみに関する情報を収集。今後の進め方を相談 ・ 令和5年9月21日：湯川村の7地区(三島・下樽川・穂花・王領・水谷地・松川団地・美田園)の燃やせるごみ集積所を視察し、各地区の廃棄物減量推進員に適宜ヒアリング。同日、会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターを訪問し、会津若松地方広域市町村圏で排出されるごみの処理・処分における課題などを視察・ヒアリング ・ 令和5年9月22日：湯川村の7地区(三島・佐野・下樽川・穂花・勝常・北田・堂畑)の資源ごみ(この日は空き缶)の集積所を視察し、各地区の廃棄物減量推進員に適宜ヒアリング ・ 令和5年10月：福島大学で、湯川村のごみに関する情報共有 ・ 令和5年11月10日：湯川村役場住民課とオンラインで打ち合わせ(後述の12月3日に向けて) ・ 令和5年11月：福島大学環境経済学研究室と湯川村役場住民課で準備(後述の12月3日に向けて) ・ 令和5年12月3日午前：令和5年度 第2回 湯川村廃棄物減量推進員会議において、10地区12名の湯川村廃棄物減量推進員と福島大学生11名が4班に分かれて、湯川村のごみの減量に関するワークショップを実施(場所：湯川村公民館 2階 大ホール) ・ 令和5年12月3日午後：湯川村廃棄物収集運搬委託業者へのヒアリング(場所：湯川村公民館 2階 大ホール) ・ 令和5年12月：福島大学環境経済学研究室で、12月3日の整理(整理したまとめは湯川村役場村民ホールに掲載(2024年1月。掲載の様子は成果報告書pp. 3-5、掲載したまとめは成果報告書pp. 6-9) ・ 令和6年1月1日発行『広報ゆがわ』p. 6「家庭ごみ減量のためのワークショップを実施しました！」(成果報告書p. 3)、福島民報新聞 会津面 2024年1月10日「ごみ排出現状や減量策など協議 湯川村」として掲載 ・ 令和6年1-2月：福島大学環境経済学研究室で、令和5年度調査結果と今後の方針について、会津DX日新館成果報告会のポスター作成(成果報告書pp. 10-12)、口頭発表準備(成果報告書pp. 13-19)

(3)令和5年度 時点の結果	・廃棄物減量推進員は、各地区の区長から推薦を受けた方が担当し、ごみ集積所の鍵の開け閉め、ごみ出し・収集の立ち合い、ごみ出し状況確認、指導・啓発などを行っていることなどを把握 ・勝常地区のみ、燃やせるごみ、プラスチックの収集頻度が他の地区より少なく、袋が指定であることなどを把握 ・燃やせるごみが次の状況で排出されていた：ほとんどの地区で湿った草木が多い(ある地区ではほとんどが草木)、意識の高い地区と低い地区の差がはっきりしている、資源ごみが燃やせるごみに混入。また、燃やせるごみの半分以上は水分で、一般に生ごみの約80%は水分であることを確認 ・資源ごみが次の状況で排出されている場合があることを確認した：ダンボールに入れた状態、汚れていて資源ごみとして回収できない、袋に入れたまま(袋から出して集積所に設置されるかごに入れることが求められているが) ・廃棄物減量推進員から、ごみ出しの現状について、良いとする声(「比較的マナーは良い」「ルールや分別は守られている」)もあれば、悪いとする声(「夏場に生ごみの異臭がする」「可燃ごみ袋からの汁漏れ」「分別されていないことが多い」「剪定された草木が多い」「資源ごみが汚れたまま出されている」「住民の意識が低い」「ルールの周知が足りていない」)もあった。 ・廃棄物減量推進員から、ごみ減量のアイデアについて、仕組みの面(いつでもごみを排出できるスペースを作る、ごみの回収日を増やす、ごみ袋の有料化、生ごみの別回収、湯川村の取り組みの周知)、住民の意識の面(資源ごみの分別意識を高める、草木の処分方法の工夫、無駄な買い物をしない、量り売りの商品を買う、個包装の商品を買わない)といった意見が出た。
(4)提言または 今後の展開	(3)に記した令和5年度時点の結果を踏まえ、令和6年度に、湯川村住民を対象に、ごみに関するアンケートを作成し、実施する。そして、回答の解析、湯川村役場住民課・湯川村廃棄物減量推進員・湯川村廃棄物収集運搬委託業者・会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターへの解析結果の提起・意見交換を行う。そして、以上を踏まえ、湯川村の1人1日あたりごみ量を減少傾向に持っていくための方策について提言を作成する。なお、現時点では、下記の4点に着目したアンケートを検討している。 ① 剪定した草木を燃やせるごみに出さないようにするにはどうすればよいか ② しっかりと分別してもらうにはどうすればよいか ③ 生ごみの水気を切ってもらうにはどうすればよいか ④ 湯川村のごみに関する取組を住民に伝えるにはどうすればよいか

<湯川村広報誌におけるワークショップ実施の紹介>

家庭ごみ減量のためのワークショップを実施しました！

12月3日(日)、湯川村公民館において、第2回湯川村廃棄物減量推進員会議を開催し、会議の中で、ごみ減量に関するワークショップを実施いたしました。

今年度、村では「家庭ごみ減量」をテーマに福島大学（経済経営学類 沼田ゼミ）と連携協力し、各地区のごみの排出状況調査やヒアリング調査を実施してきました。この活動は、村と県会津地方振興局、地元大学が連携して取り組む『会津DX日新館』事業の一環で、家庭ごみの排出量が増加する原因と解決策を見出すことが目的です。

今回のワークショップでは、大学生と推進員が4つのグループに分かれ、各地区のごみ出しの現状やごみの減量策などについて話し合い、様々な意見・要望を聞くことができました。

ワークショップで出た意見を参考にしながら、今後も湯川村のごみ減量化を推進していきます。

※役場村民ホールにて、ワークショップのまとめを掲示しておりますので、興味のある方はぜひご覧ください。(令和6年1月末頃まで)



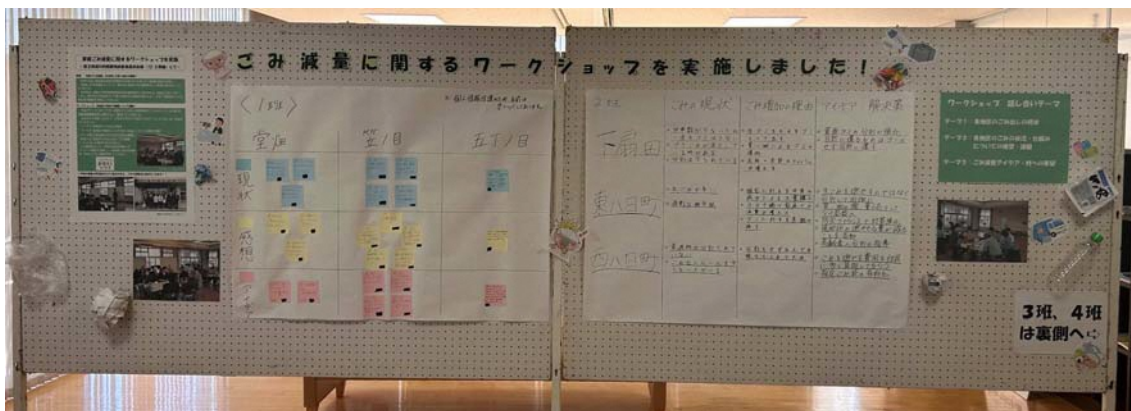
ワークショップの様子



福島大学沼田ゼミの皆さん

出典：広報ゆがわ 2024年1月1日発行, p.6

<湯川村村民ホールでの掲示の様子①>



撮影：湯川村役場 住民課

＜湯川村村民ホールでの掲示の様子 ②＞

家庭ごみ減量に関するワークショップを実施 ～第2回湯川村廃棄物減量推進員会議（12/3開催）にて～

背景－「会津 DX 日新館」を活用した取り組みを開始！

令和5年度、福島県会津地方振興局が主催する「会津 DX 日新館」事業を活用し、「家庭ごみの減量化」について、湯川村と福島大学が連携協力して事業を進めることとなりました。

今年度は、福島大学経済経営額類沼田大輔教授のご協力のもと、沼田ゼミ生(11名)とともに、湯川村の「家庭系のごみ量」が増加する原因を探るため、これまで各地区のごみの排出状況調査を実施してきました。

ワークショップ－各地区の現状や課題について議論！

今回のワークショップでは、各地区のごみ出しの管理等をしていただいている「湯川村廃棄物減量推進員」の皆さんにご参加いただきました。

当日は4つの班に分かれて、大学生が考えた下記の3つのテーマごとに話し合いを進めていきました。

テーマ①：各地区のごみ出しの現状

テーマ②：各地区の現在のごみの状況・仕組みについての感想・課題

テーマ③：ごみを減らすアイデア・村への要望

各班では、地区のごみ出しのルールや課題について多くの意見が出されました。

この結果をもとに、今後は住民の皆様へのアンケート調査を実施し、ごみ減量に有効な施策を、大学とともに調査研究していきます。



ワークショップのようす↑

○今後も福島大学沼田ゼミのご協力のもと、ごみの減量化に努めていきます！！



福島大学沼田ゼミの皆さん↑

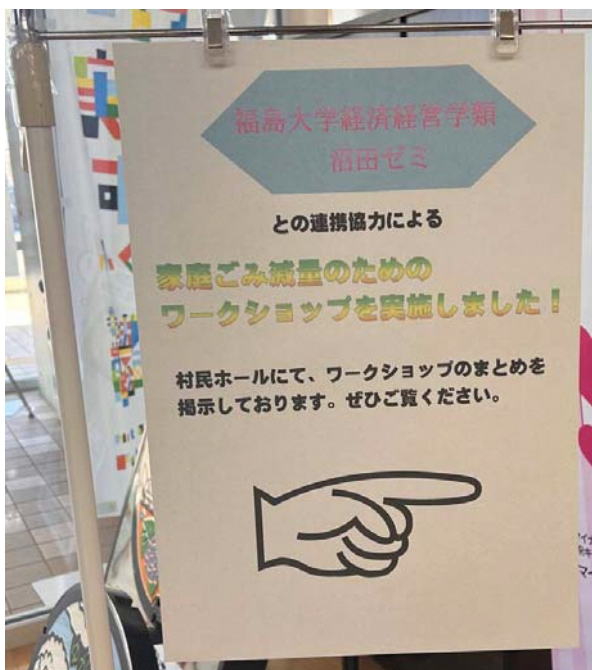
撮影：湯川村役場 住民課

<湯川村村民ホールでの掲示の様子③>



撮影：湯川村役場 住民課

<湯川村村民ホールでの掲示の様子④>



撮影：湯川村役場 住民課

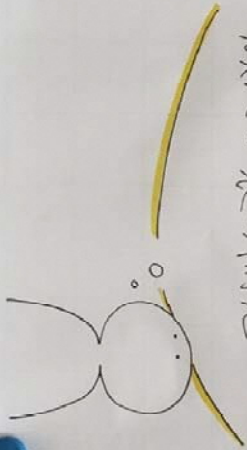
<ワークショップのまとめ①>

<1班>	堂畑	並目	五丁目
現状 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない 感想 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない アイデア アイデアを提出している アイデアを提出していない アイデアを提出している アイデアを提出していない	現状 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない 感想 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない アイデア アイデアを提出している アイデアを提出していない アイデアを提出している アイデアを提出していない	現状 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない 感想 現状を把握している 現状を把握していない 現状を把握している 現状を把握していない アイデア アイデアを提出している アイデアを提出していない アイデアを提出している アイデアを提出していない	※ 個人情報保護のため、名前は 垂りかざしてあります。

撮影：福島大学 経済経営学類 環境経済学研究室

2.班	ごみの現状	ごみ増加の理由	アイデア・解決策
下扇田	- 世帯数が少ないため一度のごみは少ない - プラごみが混ざっている時がある - 分別は守られている	- 生ゴミを燃やすゴミとして出す - 買い物によるゴミの増加 - 花輪の季節はプラスチックが増える	- 資源ゴミの分別の強化 - 自然に還るものはゴミにせず自然に還す
東八田	- 生ごみが多い - 過剰な梱包紙	- 粗大品に付く中身の減少による大量購入 - クロコト褐々家庭での消費が増えた - ゴミに付く紙の削減の低下	- 生ごみを燃やすのではなく分別して畑に - 買い物の際、量り売りでレジ容器へ - 防災アサシスで対策強化 - 洗却炉の燃やせる量が減ることを知 - 高齢者へ分別の指導
西八田	- 資源物が分別されていない - ごみ出しルールを守らない人がいる	- 分別をせよと人それぞれで - 箱入で出さず	- ごみを燃やす費用を住民に多く負担してもらう - 指定ごみ袋の有料化

3期王	ゴミの現状	ルール	課題	アイデア
<u>高瀬地区</u>	・使わないビニール袋を出している。 ・高齢化によりゴミの分別が難しい。 ・ゴミスチューワの分別が難しい。	・時間は朝の6-8時まで ・ハットボトルはつぶしてはいけ	・集積場の除雪が大変。 ・ルールの周知化。 ・世代が変わると時のルールの引き継ぎ。	・ゴミ袋の有料化。 ・資源とは出せるものを分別して出す。 ・コンポストの推奨。 ・草木の処理をできるだけ周辺で行う。
<u>堂畑地区</u>	・一気に大量のゴミ(粗大ゴミなど)が出られることが増えた。 ・ビニール袋などが多く、コンテナが足りていない。 ・前々日に出す人もいる。	・時間は午後、前日に出してものだけ。 ・基本的にルールは緩め、最低限の分別。	・ルールの周知があまりできていない。 ・草や木など"かい"大量に出されてしまう。 ・袋有料化についてどう思われるか。 ・ルールの厳格化。	・コンポストの推奨。 ・草木の処理をできるだけ周辺で行う。
<u>北田地区</u>	・生ゴミは少ない。 ・草、木が多く出される。 ・灯油が入った缶のフロンターナーが"出されて"いた。	・時間はそこまで厳しくない。 ・生ゴミはコンポストで処理されることが多い。	・特にない。	

③  【ゴミ出しの現状】 	4班 【課題】	青一三島地区 緑一北田地区 赤一田中地区  【要望・アイデア】
・ 透明な袋でゴミ出し ・ 生ゴミを出す量が多い ・ 汁が多い時がある ・ ペット関連のゴミが多い ・ カットされている木の枝刈り草がそのまま出ている ・ 畑が無いので遠く、生ゴミの廃棄が多い ・ 畑の野菜・農作業家のゴミが大量に出る	どの地区も生ゴミが多い  ・ 生ゴミ出しのルール、資源の分別が認識されていない  ・ 米袋の代わりに米袋が使われている	生ゴミの水切りの徹底 曜日を決めて生ゴミだけを回収し、町で堆肥にする。(猪苗代町参考) ・ 学習機会をもうける。 ・ 木からゴミ出しルールを注意書き、チラシを出す。(高橋地区には一軒一軒回って説明) ・ 米袋の代替となる、透明で頑丈な袋の開発 

湯川村はどのように ごみを減らしていけばいいのか

福島大学 経済経営学類 環境経済学研究室 沼田大輔ゼミ

稲月萌、小野幸太郎、小野寺翔汰、國分逸生、小林優月、鈴木七海、
丹野菜里、鶴見彩夢、牧野未侑、ムハマドユスフ、渡辺祐太



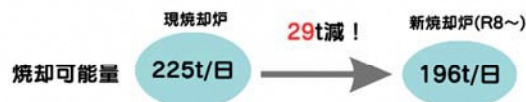
湯川村ファミリー

参加自治体：湯川村 住民課

福島県会津地方振興局 令和5年度会津DX日新館事業

湯川村調査に至った経緯

令和8年から会津若松環境センター内の焼却施設が新しくなる。新焼却炉は現在の焼却炉と比較して1日に焼却できる量が29トン減少する。このままごみの総量が増加していけば、処理費用が多くなってしまう、新たな焼却施設や埋め立て地が必要となる。新焼却炉の建設に伴い、ごみの排出量を減らしていく必要がある。



会津若松環境センターについて

会津若松市神指町にある、会津広域圏のごみを処理する施設。ごみ焼却処理施設、ごみ破碎処理施設、リサイクルセンター、有機性廃棄物リサイクル推進施設からなる。



出典：会津若松地方広域市町村圏整備組合

会津広域圏について

- ・図の10市町村で構成
- ・面積は1992.31平方キロメートルで、福島県土の14.5%を占める。
- ・人口は約17万1500人

湯川村のごみの現状

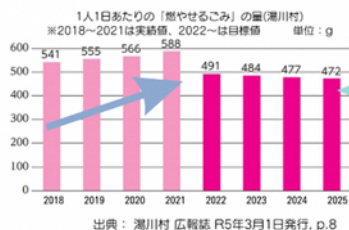


会津広域圏の中でも湯川村は1人1日あたりのごみの排出量が大幅に増加している！



湯川村とは

- ・面積は16.37km²
- ・福島県内で最も小さな自治体
- ・人口：2,949人(R5.10.1時点)
- ・世帯数：982世帯



燃やせるごみの量が上昇傾向

スケジュール

9月から12月にかけての調査

9月21日

- ・燃やせるごみの収集日に7つの地区を現地調査
- ・環境センターで会津地区の燃やせるごみの量の課題について把握

9月22日

- ・空き缶の収集日に7つの地区を現地調査

12月3日

- ・湯川村公民館でのワークショップで計10地区、12人のごみ減量推進員の方からヒアリング調査
- ・湯川村のごみ収集業者様からのヒアリング調査

湯川村ごみ収集のしくみ ～9月の現地調査から～



【ごみ出し・収集のルール】

令和5年度湯川村家庭ごみ収集カレンダー4月～6月
4月【箕川北部】 5月【勝常地区】 6月【箕川南部】

日	4月	5月	6月
1	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
2	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
3	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
4	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
5	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
6	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
7	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
8	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
9	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
10	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
11	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
12	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
13	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
14	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
15	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
16	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
17	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
18	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
19	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
20	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
21	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
22	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
23	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
24	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
25	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
26	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
27	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
28	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
29	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
30	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
31	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ

5月

日	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
1	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
2	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
3	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
4	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
5	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
6	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
7	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
8	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
9	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
10	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
11	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
12	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
13	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
14	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
15	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
16	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
17	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
18	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
19	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
20	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
21	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
22	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
23	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
24	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
25	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
26	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
27	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
28	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
29	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
30	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
31	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ

6月

日	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
1	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
2	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
3	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
4	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
5	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
6	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
7	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
8	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
9	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
10	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
11	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
12	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
13	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
14	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
15	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
16	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
17	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
18	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
19	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
20	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
21	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
22	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
23	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
24	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
25	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
26	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
27	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
28	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
29	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
30	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ
31	燃やせるごみ	燃やせるごみ	燃やせるごみ

※7月からのカレンダーは裏面です。このままご使用ください。

出典：福島県湯川村公式WEBサイト

○区分け

- ・箕川北部・箕川南部・勝常北部・勝常南部
- ・勝常地区



○ごみの収集日

- ・燃やせるごみ→週2回（月・木曜日）
勝常地区のみ週1回（月曜日のみ）
- ・プラスチック→毎週水曜日（月4回）
勝常地区のみ隔週の水曜日（月2回）
- ・空きびん、空き缶、燃やせないごみ、ペットボトル、古紙類
→月1回（すべての地区）

【ごみ減量推進員とは？】

- ・ごみ収集所の鍵の開け閉め
- ・ごみ出し、収集の立ち合い
- ・各地区の区長から
推薦を受けた方が担当
（下扇田地区…区長の奥さん）



○ごみの出し方について

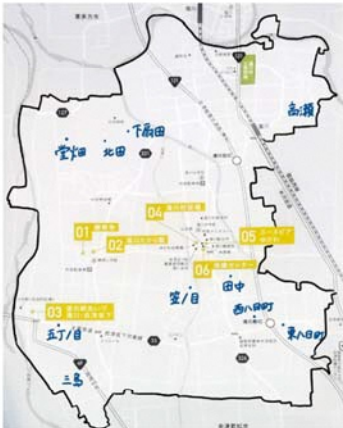
- ・燃やせるごみ
→袋に入れて収集所に（勝常地区は袋指定）
- ・缶（スチール、アルミ）
→袋から出して収集所に設置されるかごに入れる
- ・空きびん
→「無色透明」「茶」「その他」を色別に
それぞれ専用コンテナに出す。
- ・木くず→太さ10cm長さ60cm以下に切り束ねる
- ・草など→乾燥させて軽くしてからごみに出す



推進員からの意見

～ワークショップから～

堂畑・北田・下扇田・高瀬・笠ノ目・田中・西八日町・東八日町・五丁ノ目・三島の計10地区、12人の推進員とのワークショップを実施




ワークショップの様子

【各地区のごみ出しの現状】

夏場に生ごみの異臭がする
(堂畑)

分別されていないことが多い
(西八日町)

汚れたまま資源ごみが出されている
(高瀬・三島・西八日町)

剪定された草木が多い
(堂畑・北田)

ルールの周知が足りていない
(北田・東八日町)

ルールや分別は守られている
(笠ノ目・下扇田)

【ごみ減量のアイデア】

仕組みについて

ごみ袋の有料化
(高瀬)

回収日の増加
(西八日町)

生ごみの別回収
(東八日町・三島)

いつでも出せるスペースをつくる
(西八日町)

意識について

分別意識を高める
(下扇田)

草木の処分方法の工夫
(笠ノ目)

売り手側について

量り売りを多くする
(東八日町)

調査から得られた課題

- ①剪定した草木を可燃ごみになるべく出さない**
 湯川村は自然に囲まれた地域であり、切った草木を袋に入れて燃えるごみに出してしまう。ルール上問題はないのだが、燃やさなくても処理できるものをほかの方法で処理する。(共同の置き場所コンポストのようなもの)
- ②汚れたまま資源ごみを出さない・しっかりと分別する**
 汚れたまま出してしまうと、燃やす必要のないものまで燃やさなければならない。
- ③生ごみの水気を切って出す**
 生ごみの水気を切ることに衛生面での忌避が問題の根底にあることが考えられるため、市民の使いやすい場所に生ごみ乾燥機を設置する。
- ④ルールを住民に伝える**
 12月のヒアリング調査で意図的にルールを破っているのではなく、知らないために破ってしまうという事が分かった。そのためまずルールを認知してもらうことが大切。

今後の展望

課題解決を目的としたアンケート作成

↓

湯川村全983世帯から無作為に抽出しアンケートを配布、回収
(郵送で配布、役場に持参、FAX、郵送の三つの方法で回収)

↓

アンケートの結果の分析

↓

湯川村に対してごみの減量方法を提言

1



湯川村はどのように ごみを減らしていけばよいのか

福島大学 経済経営学類 環境経済学研究室 沼田ゼミ

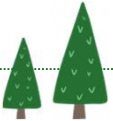
福月南 小野幸太郎 小野寺雅汰 園分造生 小林優月 鈴木七海 丹野菜星 鶴見彩夢 牧野来侑 ムハマドユスフ 渡辺祐太

参加自治体・湯川村 住民様

福島県会津地方振興局 令和5年度会津DX日新館事業



2



目次

- 01 調査経緯・湯川村について
- 02 調査と分かったこと
- 03 まとめ
- 04 今後の展開

3

調査経緯

01



4

湯川村調査に至った経緯

焼却施設が新しくなる

現在 処理容量 **225** t/日

29t減

新 **196** t/日



会津広域圏について

5

右の10市町村で構成
人口約17万15000人
圏域は約2000平方キロメートルで、
福島県全土の14.5%を占めている



出典：会津若松地方広域市町村圏整備組合 aizu-kouiki.jp

1人1日あたりごみ排出量

6

令和2年度

順位	市町村名	排出量(g)
1	会津若松市	1,123
2	会津美里町	943
3	猪苗代町	1,172
4	会津坂下町	832
5	磐梯町	1,292
6	柳津町	889
7	湯川村	821
8	金山町	851
9	三島町	852
10	昭和村	863
合計		9,638

他の会津広域圏と比べて
1人当たりのごみ排出量が
大幅に増加



令和3年度

順位	市町村名	排出量(g)	増減
1	会津若松市	1,100	-23
2	会津美里町	928	-15
3	猪苗代町	1,148	-24
4	会津坂下町	851	19
5	磐梯町	1,324	32
6	柳津町	907	18
7	湯川村	906	85
8	金山町	807	-44
9	三島町	919	67
10	昭和村	891	28
合計		9,691	53

湯川村のごみを減らすにはどうしたらよいか？

7

湯川村の地図

- ・人口2,949人(R5.10.1時点)
- ・世帯数982世帯
- ・村の面積16.37km²で福島県内で一番小さい自治体となっている。



8

9

調査と分かったこと



スケジュール

10

9月21日：湯川村の燃やせるごみの収集日に7つの地区を**現地で調査**
(三島・下樽川・穂花・王領・水谷地・松川団地・美田園)

環境センターに訪問し会津地区の**燃やせるごみの量の課題を把握**

9月22日：湯川村の空き缶の収集日に7つの地区を**現地で調査**
(三島・佐野・下樽川・穂花・勝常・北田・堂畑)

12月3日：湯川村公民館でワークショップを行い、各地区のごみ推進員から**聞き取り調査**
(堂畑・笹の目・五丁の目・西八日町・東八日町・下扇田・高瀬・北田・田中・三島)
湯川村のごみ収集業者から**聞き取り調査**

11

現地調査（燃えるごみ集積所）



12

燃やせるごみ収集を調査して分かったこと

- ・ほとんどの地区に湿った**草木**が多い
(ある地区ではほとんどが**草木**だった)
- ・意識の高い地区と低い地区の差がはっきりしていた
- ・**資源ごみ**が入っていた



**燃やせるごみに混ざっている草木をなくせば
燃やせるごみの量は減るのではないか？**



現地調査（環境センター）

13

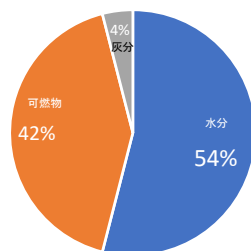
環境センターとは収集したごみを処理する施設



環境センターから分かったこと

14

令和4年度 可燃ごみの3成分



可燃ごみの半分以上は水分で組成
一般的に生ごみの約80%は水分



生ごみの水切りをすることが可燃ごみの減量に有効なのは？

9月22日環境センター配布資料より作成

現地調査（資源ごみ集積所）

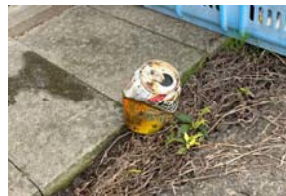
15



資源ごみ収集調査から分かったこと

16

ダンボールに入れた状態で出されている ↓



↑
←汚れていて回収できない資源ごみ

袋に入れたまま出されている ↓



しっかり分別することがゴミ減量につながるのでは？

ワークショップ

17

湯川村公民館で実施

推進員10地区から**12名**が参加
(堂畑・笠ノ目・五丁ノ目・西八日町・東八日町・下扇田・高瀬・北田・田中・三島)

ディスカッション形式で聞き取り



ごみ減量推進員が存在する

18

ごみ減量推進員とは？

- ・市民の中でも、地域の中で**ごみの減量や資源分別に意欲的な**方々に対して設けられた制度。
- ・地域の**ごみ出し状況確認や指導**
- ・**収集所の管理**(鍵の開け閉め)
- ・**ごみ減量の啓発**などを行う
- ・基本的に各地区の区長から推薦を受けた方が担当する。



ワークショップ

19

家庭ごみ減量のためのワークショップを実施しました！

12月3日(日)、湯川村公民館において、第2回湯川村廃棄物減量推進員会議を開催し、会議の中で、ごみ減量に関するワークショップを実施しました。
今年度、村では「家庭ごみ減量」をテーマに福島大学(経済経営学類 沼田ゼミ)と連携協力し、各地区のごみの排出状況調査やヒアリング調査を実施してきました。この活動は、村と県会津地方振興局、地元大学が連携して取り組む「会津DX日新館」事業の一環で、家庭ごみの排出量が増加する原因と解決策を見出すことが目的です。
今回のワークショップでは、大学生と推進員が4つのグループに分かれ、各地区のごみ出しの現状やごみの減量策などについて話し合い、様々な意見・要望を聞くことができました。
ワークショップで出た意見を参考にしながら、今後も湯川村のごみ減量化を推進していきます。
※役場村民ホールにて、ワークショップのまとめを掲示しておりますので、興味のある方はぜひご覧ください。(令和6年1月末頃まで)



ワークショップの様子

福島大学沼田ゼミの皆さん

出典:広報ゆがわ 2024年1月号

推進委員の声(各地区のごみ出しの現状)

20

良い現状

比較のマナーは良い
(笠ノ目)

分別は守られている
(下扇田)

悪い現状

夏場に生ごみの異臭がする
(堂畑)

可燃ごみ袋からの汁漏れ
(三島)

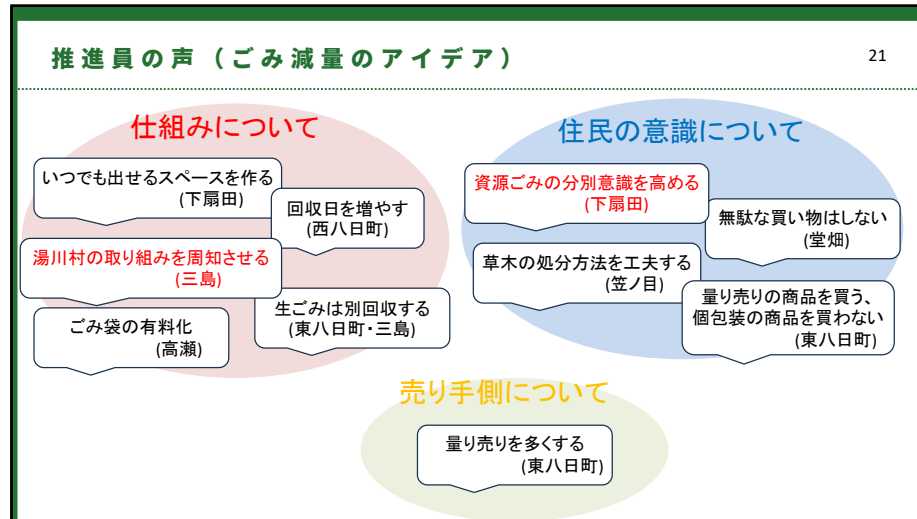
剪定された草木が多い
(堂畑・北田)

分別されていないことが多い
(西八日町)

住民の意識が低い
(西八日町)

資源ごみが汚れたまま
出されている
(高瀬・三島・西八日町)

ルールの周知が足りていない
(北田・東八日町)



- 調査から得られた課題 23
- ① 剪定した草木を可燃ごみに出さないためにはどうすればよいのか
 - ② しっかりと分別させるにはどうすればよいのか
 - ③ 生ごみの水気を切ってもらうにはどうすればよいのか
 - ④ 湯川村の取り組みを住民に伝えるにはどうすればよいのか
-



今後の展開

25

課題解決に向けたアンケートを作成



湯川村全983世帯から無作為に抽出し、アンケートを配布・回収
(役場に持参、ファックス、郵送の3つの方法で回収)



アンケート結果の分析



湯川村にごみ減量の有効な手段を提言

THANK YOU

ご清聴ありがとうございました

26